

RIS Data Server Configurations

Right Solutions for Mixed-Business Environments

PDS では、データベースサーバとの通信の際に RIS (Relational Interface System)ソフトウェアを使用します。PDS クライアントマシン側では RIS Client または RIS Share と呼ばれるコンポーネントを使用します。サーバ側で実際のデータベース(Oracle 等)との通信を行うコンポーネントは RIS Data Server と呼ばれます。ただし、現在の RIS Data Server は 32 ビット版のソフトウェアであり、64 ビット版の Oracle Database との通信を直接行うことはできません。RIS Data Server には接続先のデータベースシステムに合わせて複数の種類、バージョンが存在し、適切な選択および構成を行う必要があります。

1. RIS Data Server の種類とバージョン

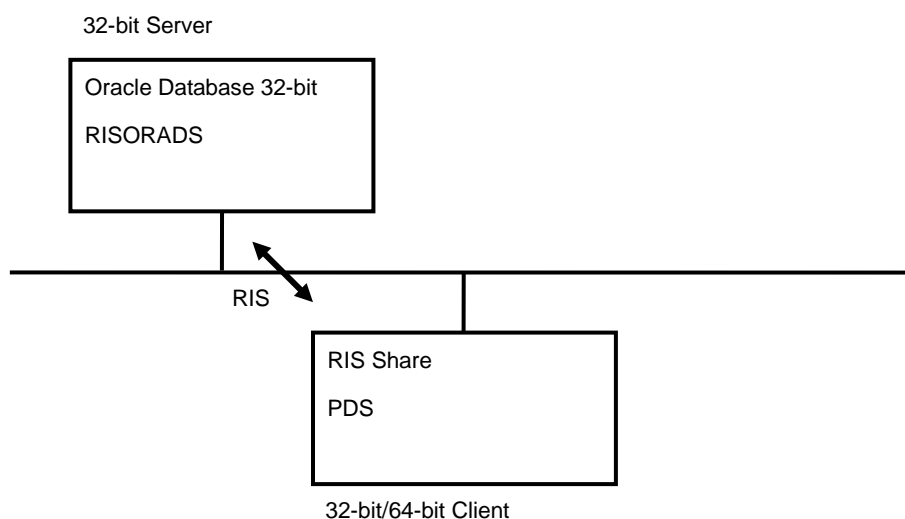
Oracle Database サーバにインストールされ、一つのサーバ内で直接通信を行う RIS Data Server は RISORADS (RIS Oracle Data Server) と呼ばれます。また、Oracle Database との通信を直接には行わず、Oracle Client を通じて通信を行う RIS Data Server は RISORANS (RIS Oracle Net Server) と呼ばれます。RISORANS は Oracle Client と同じサーバにインストールを行う必要がありますが、Oracle Client は他のサーバ上の Oracle Database との接続を行うことができます。また、Oracle Database のバージョンに合わせて複数の RIS Data Server のバージョンが存在します。

RISORADS/ RISORANS

For Oracle 9i	5.7.0.7
For Oracle 10g	6.0.0.3
For Oracle 11g	6.1.0.2

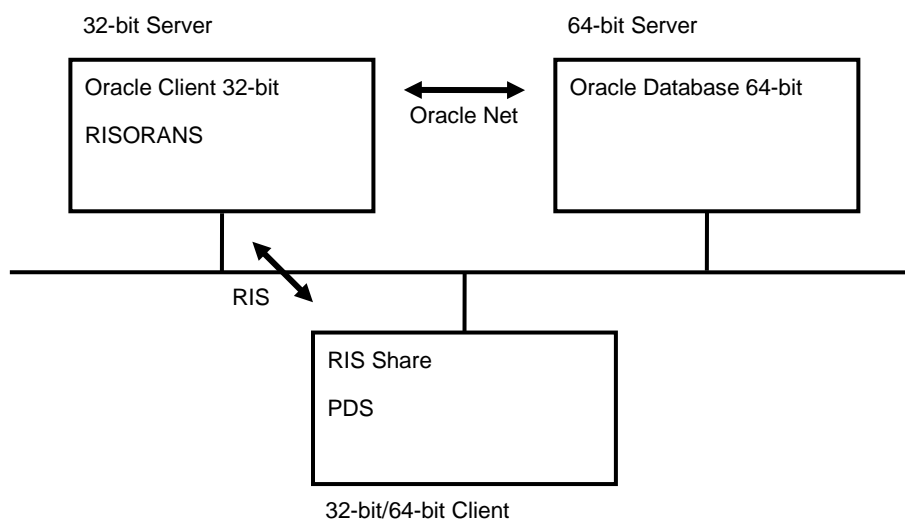
2. 32 ビット Oracle サーバ

32 ビット版の Oracle Database を使用する場合には RISORADS を使用します。

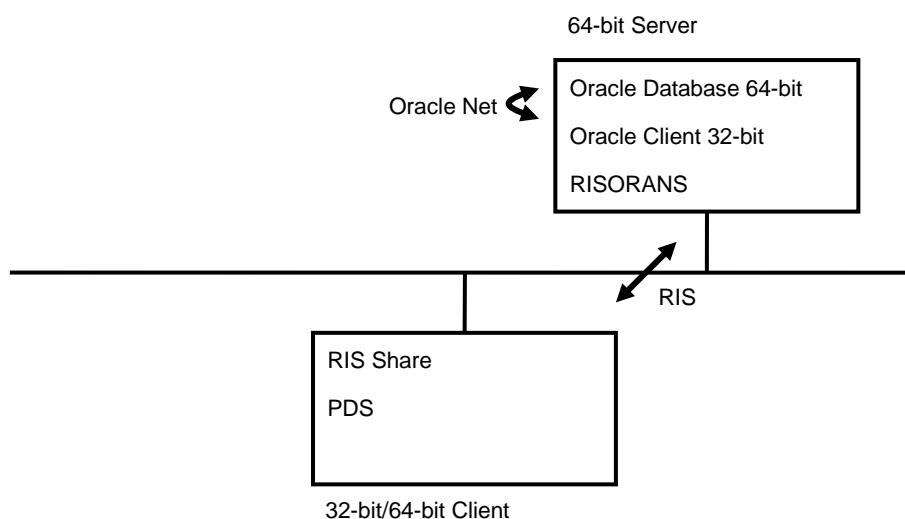


3. 64 ビット Oracle サーバ

RIS Data Server は 32 ビット版のソフトウェアであり、64 ビット版の Oracle Database と直接通信を行うことはできないため、32 ビット版 Oracle Client を経由する必要があります。



上記の例では経由アクセスのためのサーバを独立させていますが、Oracle Database 64 ビット版に対して Oracle Client 32 ビット版を追加インストールすることにより、1 台のサーバにまとめることも可能です。この場合でも RISORANS を使用することに注意する必要があります。



いずれの場合にも、Oracle Client 32 ビット版の Net Configuration Assistant により、Oracle Database 64 ビット版への接続を行う Local Net Service Name を作成しておく必要があります。

4. RISORADS 使用時のスキーマ作成

RIS では、クライアントマシンからデータベースへのアクセスを行う単位としてスキーマ (schema)を作成します。RIS Data Server として RISORADS を使用する場合、下記のような指定を行います。Oracle 11g 以降では Database Username に対するパスワードの大文字/小文字の区別が行われることに注意する必要があります。Database Management System Location には Oracle Database ソフトウェアのインストール先フォルダを指定します。

Schema Name	作成するスキーマの名前
Password	PDS の場合、指定無し
Network Protocol	TCP を最上位に選択
Nodename or Address	RISORADS サーバの名前
Database Username	スキーマに関連付ける Oracle データベース内のユーザ名
Password	上記 Oracle ユーザのパスワード
OS Type	Windows NT
Database Type	Oracle
Database Name	Oracle データベース名
Database Management System Location	Oracle Database ソフトウェアのインストール先フォルダ名
OS Username	RISORADS サーバにログオン可能な Windows ユーザ名
Password	上記 Windows ユーザのパスワード

5. RISORANS 使用時のスキーマ作成

RIS Data Server として RISORANS を使用する場合、下記のような指定を行います。Oracle 11g 以降では Database Username に対するパスワードの大文字/小文字の区別が行われることに注意する必要があります。また、このパスワードに続けて@文字および Oracle Database への接続文字列(Oracle Client により作成した Local Net Service Name)を指定します。Database Management System Location には Oracle Client ソフトウェアのインストール先フォルダを指定します。

Schema Name	作成するスキーマの名前
Password	PDS の場合、指定無し
Network Protocol	TCP を最上位に選択
Nodename or Address	RISORANS サーバの名前
Database Username	スキーマに関連付ける Oracle データベース内のユーザ名
Password	上記 Oracle ユーザのパスワード@接続文字列
OS Type	Windows NT
Database Type	Oracle
Database Name	Oracle データベース名
Database Management System Location	Oracle Client ソフトウェアのインストール先フォルダ名
OS Username	RISORANS サーバにログオン可能な Windows ユーザ名
Password	上記 Windows ユーザのパスワード